

令和7年度 地方公務員の過労死等に係る公務災害認定事案に関する調査研究（概要）

1. 内 容

地方公務員災害補償基金が、平成22年4月から令和6年3月までの期間に公務上の災害と認定した事案（784件※）について、認定理由書や裁決書等を基に事案の収集・データベース構築・集計（クロス集計）・分析を実施し、地方公務員の過労死等の実態を把握。

※ 脳・心臓疾患事案251件、精神疾患・自殺事案533件

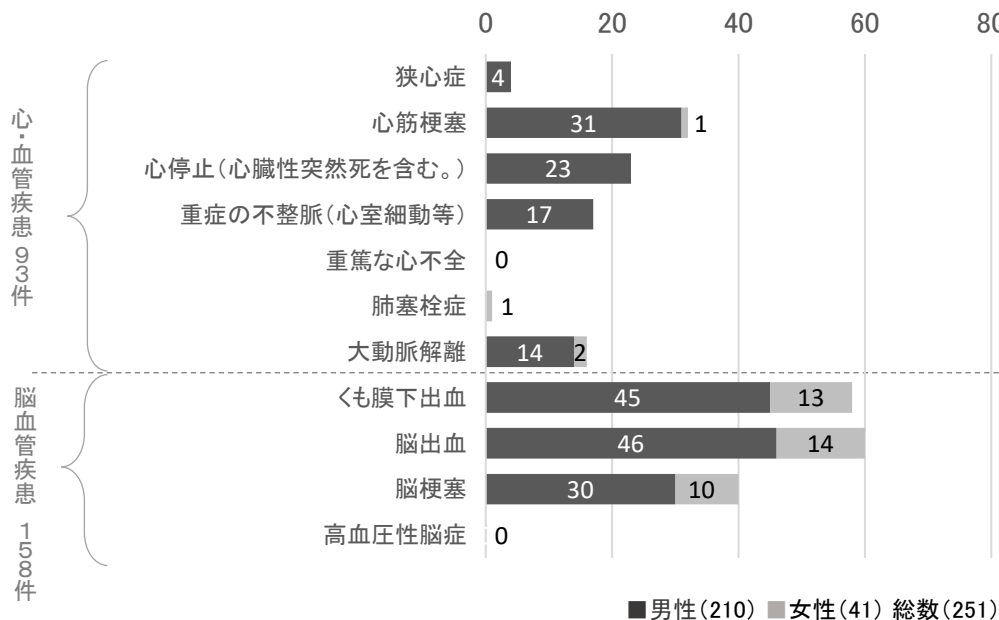
2. 成 果

- ① 被災者の個人属性、被災傷病名、職員区分、職務における負荷要因などの “ データベースを構築 ”
- ② 認定事案を「脳・心臓疾患」「精神疾患・自殺」に区分し、“ 基本集計、クロス集計を中心とした分析を実施 ”
- ③ 疾患名（決定時疾患名）をカテゴリ別に分類したことにより、“ 基礎情報を整理 ”

3. 主な分析結果

脳・心臓疾患

図1-1 決定時疾患名の分布



脳・心臓疾患251件中、心・血管疾患は93件（37.1%）、脳血管疾患は158件（62.9%）。男女別でみると、男性が約8割（210件、83.7%）、女性が約2割（41件、16.3%）であった。また、女性の認定件数については、「心・血管疾患」は4件のみであり、残りの37件は「脳血管疾患」であった。

心・血管疾患（93件）の内訳※は、

- ・ 心筋梗塞 32件（12.7%）
- ・ 心停止 23件（ 9.2%）
- ・ 重症の不整脈 17件（ 6.8%）
- ・ 大動脈解離 16件（ 6.4%）
- ・ 狭心症 4件（ 1.6%）
- ・ 肺塞栓症 1件（ 0.4%）

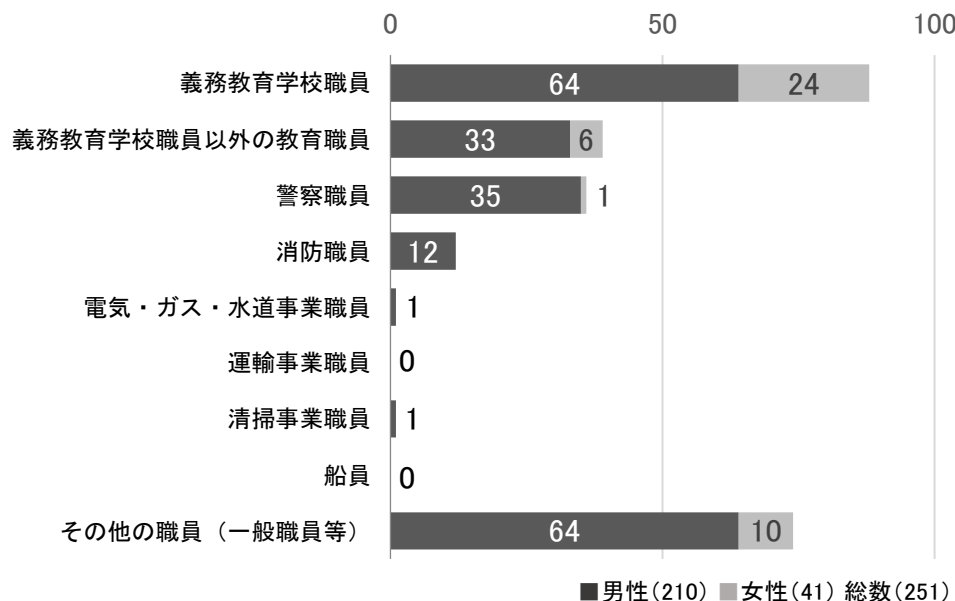
※内訳における
（ ）内はすべて
総数251件に
対する割合

脳血管疾患（158件）の内訳※は、

- ・ 脳出血 60件（23.9%）
- ・ くも膜下出血 58件（23.1%）
- ・ 脳梗塞 40件（15.9%）

であり、重篤な心不全はなかった。

であり、高血圧性脳症はなかった。

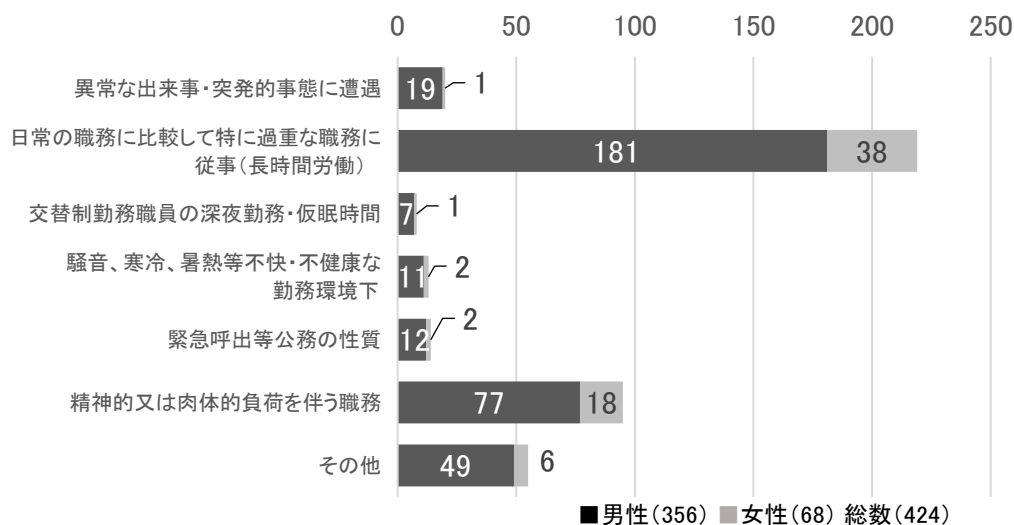


職員区分別の事案数（251件）の内訳は、

- ・ 義務教育学校職員 88件（35.1%）
- ・ その他の職員（一般職員等） 74件（29.5%）
- ・ 義務教育学校職員以外の教育職員 39件（15.5%）
- ・ 警察職員 36件（14.3%）
- ・ 消防職員 12件（4.8%）
- ・ 電気・ガス・水道事業職員 1件（0.4%）
- ・ 清掃事業職員 1件（0.4%）

であり、運輸事業職員、船員の事案はなかった。

男女別でみると、全ての職員区分で男性が大半を占めているが、女性は41件のうち、義務教育学校職員が24件であり、女性の事案数の半分以上を占めている。



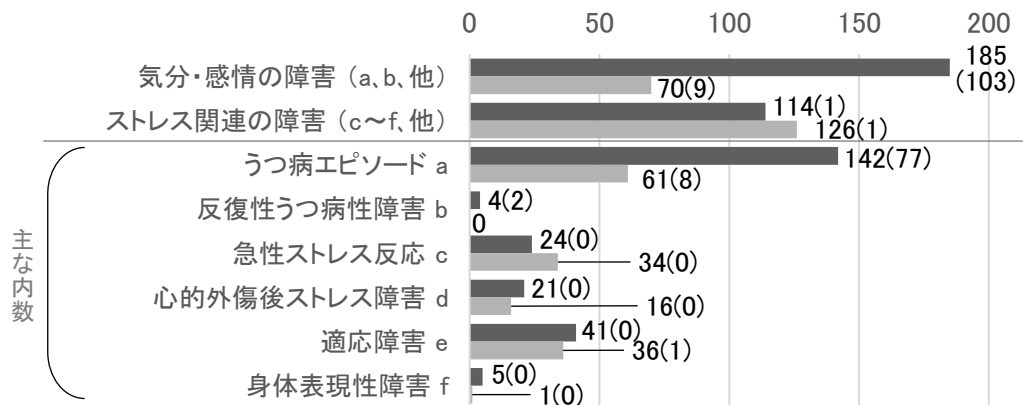
職務従事状況別の事案数424件の主な内訳（その他を除く）は、

- ・ 『日常の職務に比較して特に過重な職務に従事（長時間労働）』 219件（51.7%）
- ・ 『精神的又は肉体的負荷を伴う職務』 95件（22.4%）
- ・ 『異常な出来事・突発的事態に遭遇』 20件（4.7%）

であった。

『日常の職務に比較して特に過重な職務に従事（長時間労働）』の件数は男女ともに最も多く、男性は356件のうち181件（50.8%）、女性は68件のうち38件（55.9%）となっている。

（注）脳・心臓疾患は251件（男性210件、女性41件）であるが、1つの事案に対し、複数の職務従事状況に該当する場合はそれぞれを1件としてカウントしているため、総数（424件）とは一致しない。



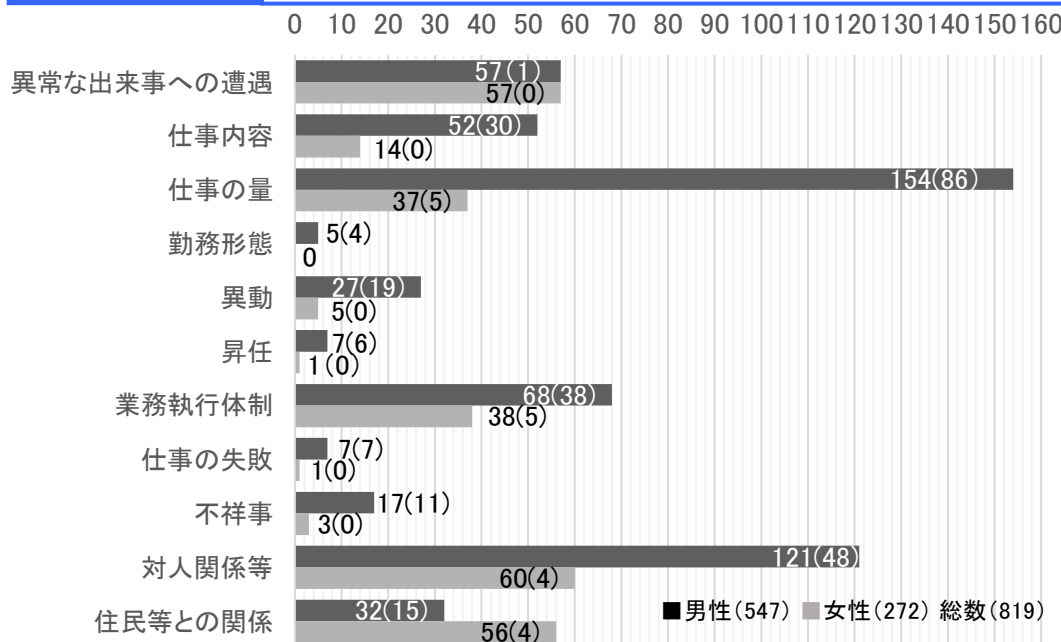
精神疾患533件中、気分・感情の障害は255件（47.8%）、ストレス関連の障害は240件（45.0%）、分類できなかった事案は38件（7.1%）。男女別でみると、男性は気分・感情の障害が多く185件、女性はストレス関連の障害が多く126件となっている。

細分化した疾患名のうち主なものは、うつ病エピソード（注）203件、適応障害77件、急性ストレス反応58件、心的外傷後ストレス障害37件となっている。

（注）うつ病エピソードとは、抑うつ（気分の落ち込み）の症状を示す疾患。

（自殺事案）

自殺事案は142件で、気分・感情の障害が112件と大半を占めており、このうち85件がうつ病エピソードであった。



業務負荷が認められる出来事の該当状況819件の主な内訳は、

- ・『仕事の量』 191件（23.3%）
- ・『対人関係等』 181件（22.1%）
- ・『異常な出来事への遭遇』 114件（13.9%）
- ・『業務執行体制』 106件（12.9%）であった。

男女別でみると、男性547件のうち、『仕事の量』154件（28.2%）、『対人関係等』121件（22.1%）、女性272件のうち、『対人関係等』60件（22.1%）、『異常な出来事への遭遇』57件（21.0%）が多くなっている。

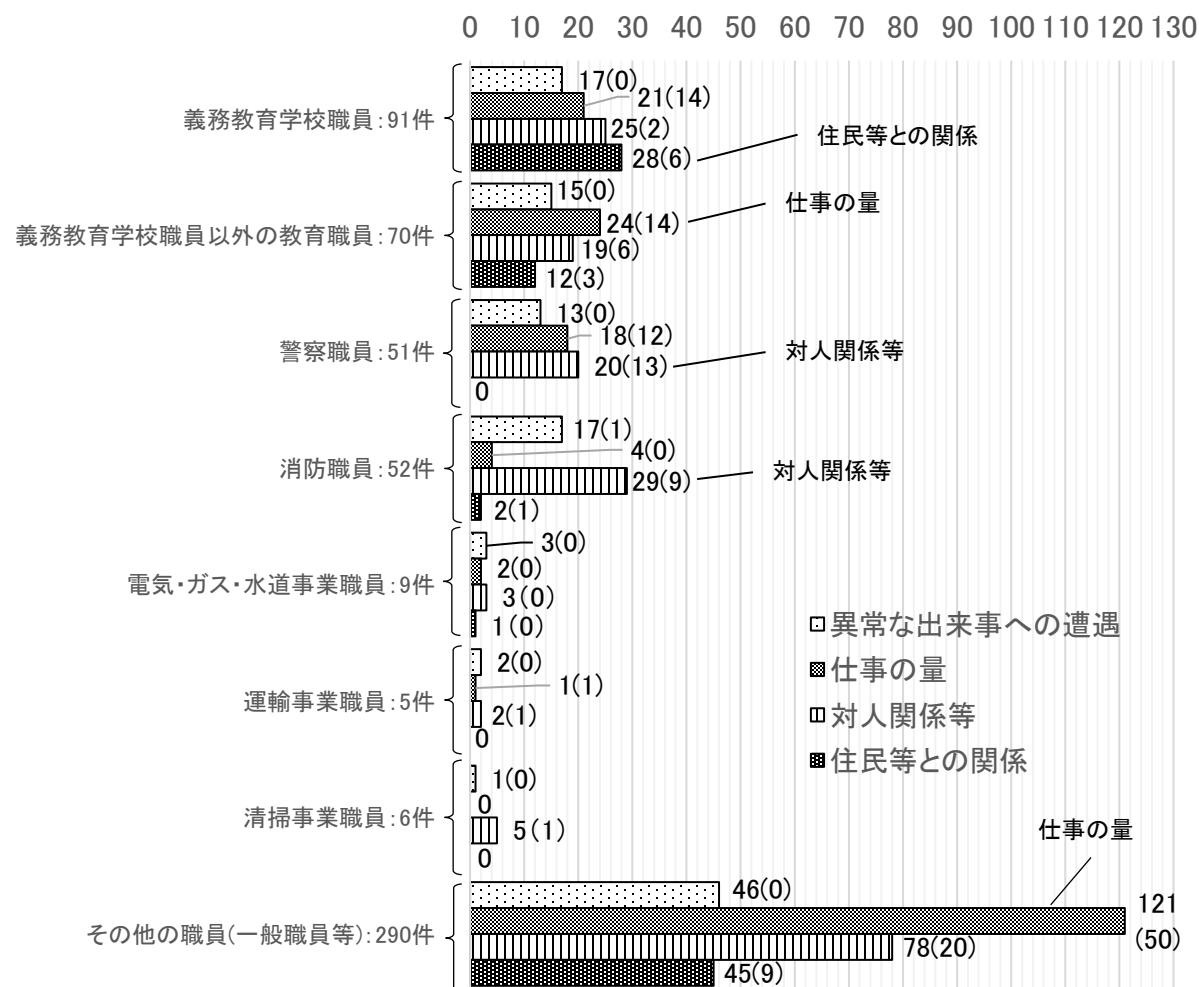
（自殺事案）

自殺事案は283件で、主な内訳は、『仕事の量』91件（32.2%）、『対人関係等』52件（18.4%）、『業務執行体制』43件（15.2%）となっている。

男女別でみると、男性は『仕事の量』が多く86件、女性は『仕事の量』『業務執行体制』がそれぞれ5件となっている。

（注）1. 精神疾患は533件（男334件、女199件）であるが、1つの事案に対し、複数の業務負荷（出来事）に該当する場合はそれぞれを1件としてカウントしているため、総数（819件）とは一致しない。

2. （ ）内は、うち自殺事案の数。



業務負荷（出来事）別の事案数574件について、職員区分別にクロス集計すると、それぞれ最も多いのは、

- ・義務教育学校職員
→ 『住民等との関係』 91件中28件（30.8%）
- ・義務教育学校職員以外の教育職員
→ 『仕事の量』 70件中24件（34.3%）
- ・警察職員
→ 『対人関係等』 51件中20件（39.2%）
- ・消防職員
→ 『対人関係等』 52件中29件（55.8%）
- ・その他の職員（一般職員等）
→ 『仕事の量』 290件中121件（41.7%）

であった。

(注) 1. 精神疾患は533件であるが、1つの事案に対し、複数の業務負荷(出来事)に該当する場合はそれぞれを1件としてカウントしているため、総数(574件)とは一致しない。
 2. 業務負荷が認められる出来事のうち、主な4項目のみを抽出して記載している。
 3. ()内は、うち自殺事案の数。